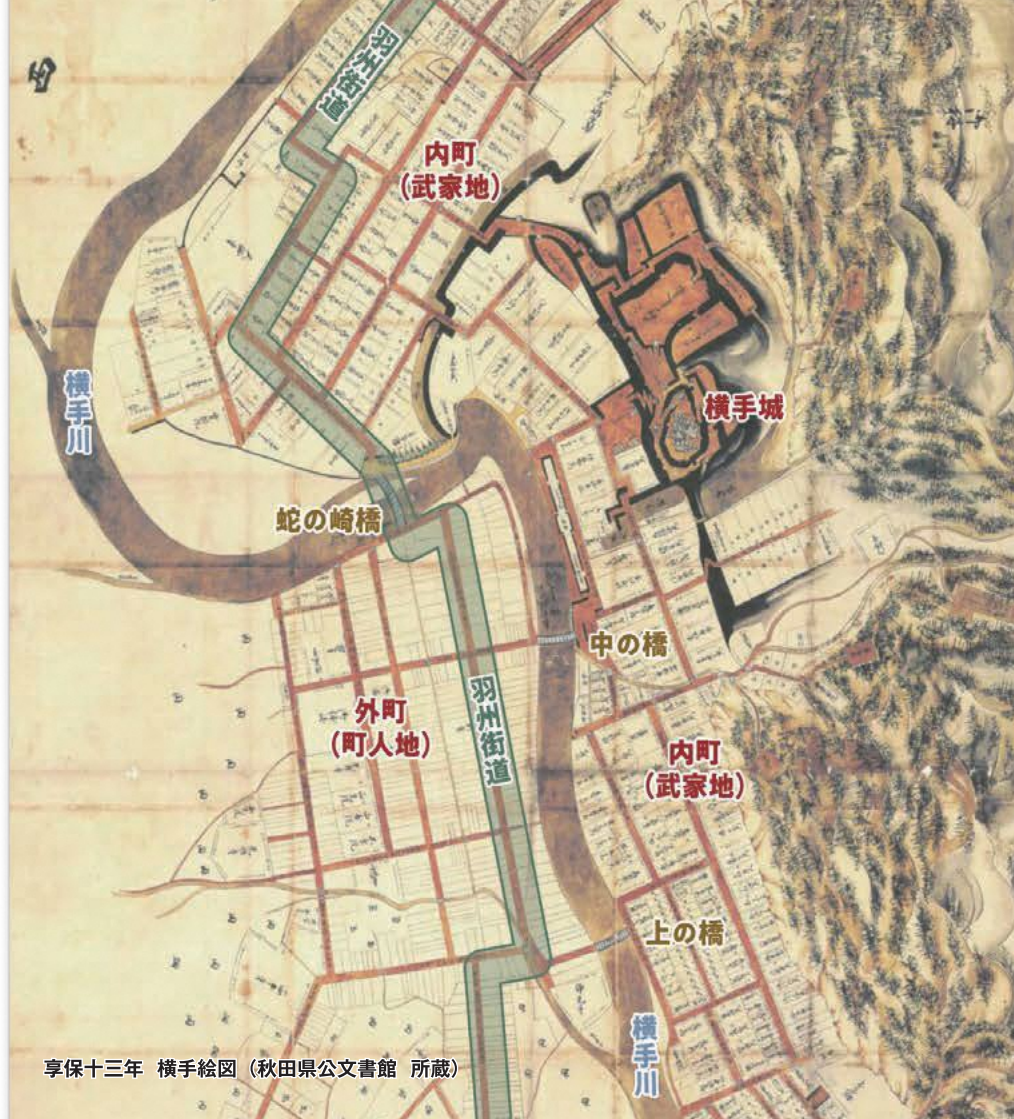


横手城下 まちあるき



横手市の歴史文化遺産
横手城下まちあるき編



享保十三年 横手絵図 (秋田県公文書館 所蔵)

表紙 横手絵図（秋田県公文書館所蔵、県指定文化財）

横手城下は、横手川を境として、武家地である内町と、町人地である外町にわけられていました。

横手城下の絵図は時代の異なるものが複数残されていますが、内町と外町の町割りは寛文 10 年（1670）の絵図では既に成立しており、基本的な町割りは現在まで継承されています。

この古地図は、享保 13 年（1728）のものですが、格子状の内町と外町が 3 つの橋（上流から上の橋、中の橋、蛇の崎橋）で結ばれ、丘陵上に横手城が位置する構造がよくわかります。家老今宮大学による領内調査が進むなかで作成された町絵図で、秋田領南部の横手には支城が置かれ、佐竹一門の戸村氏が所預として入りました。

横手城下 歴史まちあるきルート

ルート 1

横手の城下町の 変遷をめぐる



横手城の城主であった小野寺氏や戸村氏にまつわる地をめぐり、羽州街道を軸に城下町として発展した「横手」のまちな変遷と移り変りを楽しむルートです。

《通過する橋（ビューポイント）》

- ・上の橋 ・中の橋

《主な見所》

- ・神明社
- ・こうじ庵
- ・旧片野家住宅
- ・木村屋商店本店
- ・旧蛇の崎橋跡
- ・中の橋（八柏大和守殉難の地）
- ・横手公園展望台（横手城）



ルート 2

横手城下の 伝統行事をめぐる



江戸時代から横手に伝わる 4 つの伝統行事の場をめぐり、時代を超えて継承されてきた祭りの様子に触れるコースです。

《通過する橋（ビューポイント）》

- ・蛇の崎橋 ・上の橋

《かまくら行事：毎年 2 月 15、16 日開催》
水神様をまつる小正月行事で、横手の冬の風物詩として全国的に知られています。

《梵天奉納行事：毎年 2 月 17 日開催》
重さ 30kg 以上の梵天をもち、さまざまな願いを込め旭岡山神社に奉納します。

《神明社神輿渡御行事：毎年 5 月 5 日開催》
神明社の春祭に行われる市内でも最も規模の大きな神輿渡御です。

《送り盆行事：毎年 8 月 16 日開催》

江戸時代に飢饉や疫病で亡くなった霊を屋形舟を作り供養したのが始まりの県指定無形民俗文化財の行事です。



ルート 3

雪国横手に伝わる 風物や暮らしの 工夫に触れる



横手に伝わる、雪国ならではの食や文化を体験するコースです。冬期がおすすめですが、かまくら館では、年中、横手の厳しい寒さを体験できます。

《通過する橋（ビューポイント）》

- ・上の橋
- ・学校橋

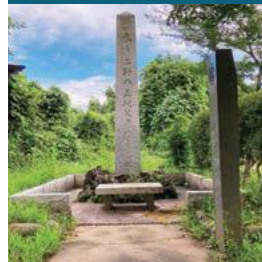
《主な見所》

- ・こうじ庵（発酵）
- ・羽黒町・上内町地区（かまくら会場）
- ・旧片野家住宅（庭園）
- ・ゲストハウス平源裏（染色業）
- ・旧柏谷家住宅（建築）
- ・かまくら館（暮らし体験）



ルート 4

横手で活躍した 人々の ゆかりの地を巡る



横手で活躍した、様々な人々のゆかりの地をめぐり、偉人たちが生きた各々の時代について、想いを馳せるコースです。

《通過する橋（ビューポイント）》

- ・学校橋
- ・中の橋
- ・蛇の崎橋

《主なゆかりの地》

- ・正平寺赤門（藤原正衡・小野寺泰道）
- ・出羽印刷（石橋湛山）
- ・旧日新館（M.M.スマイザー）
- ・本多上野介正純墓碑
- ・八柏大和守殉難の地
- ・横手柿蓑祥の地（大瀬宇左衛門）
- ・石坂洋次郎文学記念館

ルート 01

横手の城下町の変遷をめぐる



築城したとされる小野寺氏や、まちの成り立ちに想いを馳せ、羽州街道を軸に城下町として発展した「横手」の変遷と移り変りを楽しむルートです。

歴史まちあるきルート





国土地理院のウェブサイト USA-R1425-25 (撮影 1948 年)

見所④ 大町通り周辺エリア (エリア内の主要建築：木村屋商店本店)

大町通りは、横手城下のメインストリートであり各種の店が立ち並び、また、本陣（江戸時代に主要な街道の宿場に置かれた大名・官家・公家・幕臣用の宿舎）がありました。

エリア内には、国の登録有形文化財になっている木村屋商店本店と平源旅館本店、土蔵をはじめ、現在もレトロな雰囲気を持っている店舗があり、商人町の面影を残しています。木村屋の創業者山下久助は、当時の横手に有名なお土産がないことから、横手名産の横手柿に着目し、新たなお土産品として柿羊羹を生み出しました。



見所① 神明社 (歴史まちあるきルートのスタート地点)

神明社は、横手城下の町人町である外町を中心に、古くから信仰を集めている神社で、毎年5月5日には神明社の神輿渡御行事が行われます。

享保元年（1698年）には、当時横手町の富豪とされる大沼津右衛門、金子吉右衛門、泉兵右衛門らによって社殿が再建され、本町の鎮守とし、明治13年（1880年）現在地に移転しました。社宝の「銅錫杖頭」は国の重要文化財に指定されています。

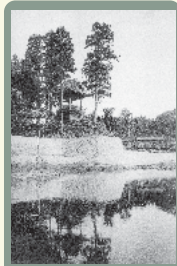


見所⑤ 旧蛇の崎橋跡 (旧蛇の崎橋の架かっていた場所に石碑)

羽州街道の一部となっていた蛇の崎橋は、横手川をはさんで外町と内町を結んでいました。蛇の崎橋から眺めるお城山と小野寺、鐘楼堂を一望できる景観は、横手を代表する景色として市民に親しまれていました。

昭和6年に架け替えが行われ、架け替え前の位置に石碑があります。

架け替え後は県道272号線に接続し、現在も多くの人や車の往来を助けています。



観音寺の鐘楼堂（昭和初期）



旧蛇の崎橋（昭和4年頃）



新築時（昭和6年頃）

見所② 鍛冶町通り周辺エリア (エリア内の主要建築：こうじ庵)

鍛冶町通りは、かつての羽州街道の一部であり、明治期には多くの商店で栄えていました。名前とおり、鍛冶職人が多く住んでおり、この鍛冶町に住んだとされる名工の刀が今も伝わっています。

こうじ庵は、市の所有で一般に開放されていますが、旧佐々木麴店であり、明治38年頃の建築とされています。伝統的な切妻造妻入の木造建築で歴史的風致形成建造物に指定されています。現在は市民の活動の場、まちや観光情報提供の場として利用されています。



見所③ 中の橋 (八拍大和守殉難の地)

中の橋は内町と外町をつなぐ役割を担っていました。橋のたもとには、八拍大和守殉難の地の石碑がたっています。この八拍道は小野寺に仕えた軍師として活躍しました。しかし敵陣に内通しているという偽の書状を目にした小野寺義道により中の橋で殺害されてしまいました。

この中の橋をわたったのぼった先の上野台に、本多上野介正純の墓があります。本多上野介正純は、徳川家康の重臣でありながら二代将軍秀忠暗殺の汚名により失脚し、横手市の上野台（現在の城南町）で生涯を閉じました。



中の橋（明治40年頃）

見所⑥ 羽黒町・上内町地区エリア (エリア内の主要建築：旧片野家住宅)

羽黒町・上内町地区エリアは、戊辰戦争により横手城が落城（1868年）した際に、内町の武家屋敷群もほとんどが焼失しましたが、現在でも当時の地割は踏襲され、横手城下の内町として栄えた時代の武家地を思わせるまちなみです。

旧片野家住宅は、羽黒町にある旧武家地を利用した明治以降の大規模建造物であり、戊辰戦争からの復興と羽黒町上内町景観重点地区の核となっている。横手城下の歴史的風致を象徴する建造物として、歴史的風致形成建造物に指定しています。



見所⑦ 横手公園展望台（横手城） (歴史まちあるきルートのゴール地点)

横手城には天守閣はありませんでしたが、昭和40年（1965年）に横手公園展望台として、模擬天守が建造されました。模擬天守が立っている場所は、かつての横手城の二の丸跡であり、鳥海山と蛇行する横手川、城下町を望む眺望は、江戸時代のころから変わらない風景であると思われます。横手城二の丸跡には横手城を築城したといわれる小野寺氏顕彰碑が建立されています。

展望台からは、「横手盆地」、「横手川」、「鳥海山」など、様々な風景を、四季を通じて、観ることができます。



Yokotter

ルート 02

横手城下の 伝統行事をめぐる



江戸時代から横手に伝わる4つの伝
統行事の場をめぐり、時代を超えて継
承されてきた祭りの様子に触れるコー
スです。



かまくら行事

横手は毎年 2 月 15、16 日に開催されるかまくら行事の会場になっています。約 450 年の歴史があると言われており、横手の冬の風物詩として全国的に知られています。

送り盆行事

毎年 8 月 16 日に行われる行事で県の無形文化財に指定されています。諸説ありますが、1733 年頃に発生した享保の大飢饉のときに死者の供養のために柳町（現在の中央町）が屋形船を作り、河原から流して供養したのが始まりとされています。

神明社神輿渡御行事

毎年 5 月 5 日に神明社で行われる神輿渡御行事は市内でも最も規模が大きく、社にお鎮まりになっている神様が神輿や山車にお遷りになり、氏子の手により氏子地域を巡幸します（渡御祭は全国の神社で行われています）。

梵天

毎年 2 月 17 日に開催され、4m ほどの竿の先に豪華な頭飾りを載せ、色鮮やかな布や麻糸を織った重さ 30kg 以上の梵天をもち、旭岡山神社に奉納する行事です。

かまくら館（かまくら行事）※歴史まちあるきルートのスタート地点



かまくら館は、横手を代表する冬の伝統行事「かまくら」を通年で体験できる、ホールや会議室も備えた文化と観光の複合施設です。

常にマイナス 10 度ほどに保たれたかまくら室では、横手の雪を使って作った本物の「かまくら」を年間を通して体験できます。

売店では、横手市のおいしい特産品や、ここでしか買えない横手やきそばグッズ、観光協会オリジナルのお土産も販売しています。

畜太薬局・四日町周辺エリア（送り盆行事）



各町内で製作された屋形船は「サイサイ囃子」と呼ばれるお囃子とともに羽州街道のまちなみを進み、蛇の崎橋をめざします。



神明社（神明社神輿渡御行事）※歴史まちあるきルートのゴール地点



神明社は横手城下の町人町である外町を中心に、古くから信仰を集めている神社です。

行列は、羽織袴や半纏などの装束をまとった供奉者（ぐぶしゃ）とよばれる神輿を護る集団を中心に構成されており、大半は近隣の中学生や高校生が担っています。巡行の最中には楽人らにより神楽が奏でられ、その音色が届くことで神輿の到来が住民に伝わってきます。

鍛冶町通り周辺エリア（梵天）



横手市役所前を出発し、羽州街道の鍛冶町を抜け、旭岡山神社に向けて、ホラ貝の音や勇ましい掛け声とともに町内を進んでいきます。梵天奉納は秋田県内各地で行われていますが、この横手地域の梵天は梵天自体が大きいこと、色彩が鮮やかなこと、頭飾りが豪華であることが特徴です。「梵天が終わると春が来る」といわれるように、豪雪で閉ざされた季節に終わりを告げる行事として受け継がれています。

羽黒町・上内町地区エリア（かまくら行事）



かまくら行事は、豊作を祈願した内町の火祭りであるかまくらと、外町で行われていた水神祭りが混合し、さらに子どもの遊び要素が付加されて現在の形式になったとされています。

昭和 11 年（1936 年）にドイツの建築家ブルーノ・タウトが横手を訪れた際には、「これほど美しいものを私はかつて見たこともなければ、また予期もしていなかった」とかまくらを称賛しました。

蛇の崎橋（送り盆行事）



送り盆行事は、各町内で製作された屋形船は「サイサイ囃子」と呼ばれるお囃子とともに羽州街道のまちなみを進み、蛇の崎橋をめざします。蛇の崎橋の上で屋形船が船首を高く持ち上げ、船同士がぶつけ合いを始めます。

屋形船の周囲では「サイサイ囃子」が囃し立てられ、横手城からは花火が打ち上げられ、祭りのクライマックスの場として盛り上がります。

大町通り周辺エリア（神明社神輿渡御行事）



神明社神輿渡御行事の巡行路は古くから踏襲されており、大町通りを含む外町を中心に、畜太薬局や木村屋商店本店などの歴史的建造物が残るまちなみの中を練り歩きます。

神明社神輿渡御行事では、矢来と呼ばれる町内ごとに設けられた宿を順に巡っていきます。

行列が矢来に到着すると、正面に神輿が据えられ、神職によるお祓いのあと、神輿の鈴が幾重にもならされます。

見所解説

ルート 03

雪国横手に
伝わる風物や
暮らしの工夫に触れる



横手に伝わる、雪国ならではの食や文化を体験するコースです。冬季がおすすめですが、かまくら館では、年中、横手の厳しい寒さを体験できます。

歴史まちあるきルート



**スタート地点：こうじ庵
(発酵)**

まちあるきのスタート地点です。
この施設は明治 30 年代に建てられた横手の商家を代表する造りで、佐々木麴店として地域の人々に親しまれてきました。平成 13 年に横手市に寄贈され、平成 15 年に顧客利便施設として生まれかわりました。
こうじ庵（旧佐々木麴店）をはじめ、発酵食品が製造・販売されていた鍛冶町のまちなみを知ることができます。

**羽黒の清水
(湧き水)**

横手南小学校前にある湧き水です。
以前立地していたサイダー工場の井戸水であり、かつてはこの湧き水を使用したサイダーが地元住民の間で知られていました。水温は 17℃で、お茶を入れる水として人気が高く、かつては多くの人々が訪れました。今は飲みませんが、清水跡に東屋があり、ひと休みできます。

**横手川沿い（ゲストハウス平源裏）
(染色業)**

かつては横手川で織物を晒して染物をつくっていました。染屋であった遺構がゲストハウス平源の裏に残っています。

**羽黒町・上内町地区エリア
(かまくら会場)**

かまくらは、豊作を祈願した内町の火祭りであるかまくらと、外町で行われていた水神祭りが混合し、さらに子どもの遊び要素が付加されて現在の形式になったとされています。
かまくらの会場となっている羽黒町・上内町地区エリア。内町とよばれたかつての武家地を思わせる歴史ある住宅や庭園のある暮らしに触れることができます。

**あばだらけ（旧柏谷家住宅）
(建築)**

あばだらけは、歴史的建造物を活用して開かれている農産物の直売所です。あばは、秋田弁で「お母さん」のことです。もとは呉服店の店舗と住宅であり、店蔵は明治 22 年、主屋は明治 36 年、座敷蔵と米蔵は大正 3 年に建築され同じ横手市内にある木村屋商店本店などと類似点も見られ、伝統的な蔵や頬杖など豪雪地帯特有の建築様式を知ることができます。

**旧片野家住宅
(庭園)**

旧片野家住宅は、羽黒町にある旧武家地を利用した明治以降の大規模建造物であり、戊辰戦争からの復興と羽黒町上内町景観重点地区の核となっている、横手城下の歴史的風致を象徴する建造物として、歴史的風致形成建造物に指定しています。
住宅内には横手公園を手掛けた長岡安平氏が設計したと伝わる庭園があります。

**ゴール地点：かまくら館
(暮らし体験)**

まちあるきのゴール地点。
全国的にも豪雪地帯として有名な横手の厳しい寒さを体験できます。常にマイナス 10 度ほどに保たれたかまくら室では、横手の雪を使って作った本物の「かまくら」を年間を通して体験できます。売店では、横手市の特産品や、ここでしか買えない横手やさそばグッズ、観光協会オリジナルのお土産も販売しています。



ルート 04

横手で活躍した人々の ゆかりの地を巡る

横手で活躍した、様々な人々のゆかりの地をめぐり、偉人たちが生きた各々の時代に想いを馳せるコースです。

歴史まちあるきルート



横手で活躍した人々の
ゆかりの地

見所解説

正平寺山門（赤門）：スタート地点 (藤原正衡・小野寺泰道 ゆかりの地)

まちあるきのスタート地点です。通称「正平寺の赤門」として親しまれています。

創建は寛治年中（1087～1093）に奥州藤原氏の祖となった藤原清衡の3男である藤原正衡によって開かれたのが始まりと伝えられています。

本尊は度重なる火災の中、奇跡的に難を逃れ、長祿2年（1458）、横手城主小野寺泰道が正平寺と改め現在地に再興しました。



本多上野介正純墓碑 (本多上野介正純 ゆかりの地)

永禄8年（1565年）、三河の国に生まれた本多上野介正純は、父正信とともに徳川家康の側近の筆頭として敏腕をふるいました。

家康没後、老中として秀忠に仕え、元和5年（1619年）、15万5千石の宇都宮城主となり、宇都宮城を改築し、現在の宇都宮の町割の基礎を築きました。その後、横手で暮らし寛永14年（1637年）2月29日、横手で生涯を終えました。小説「梅もどき」の舞台にもなっています。



八柏大和守殉難の地 (八柏道為 ゆかりの地)

中の橋のたもとに、横手城主である小野寺輝道・小野寺義道に仕えた八柏道為（八柏大和守道友）殉難の地の石碑があります。

八柏道為は、周囲の大名からも畏怖されていた軍師でありましたが、最上家の家臣である楢岡清茂の謀略（八柏道為が最上家に内通しているという偽の書状）によって主君の小野寺義道によって大手門前の中の橋で殺害されました。



出羽印刷 (石橋湛山 ゆかりの地)

石橋湛山は、大学卒業後、「東洋経済新報社」に入社し、日本のジャーナリストとして活躍、また、政治家として昭和31年に第55代内閣総理大臣に就任しました。石橋湛山が「東洋経済新報社」の社長を務めていたころ東京大空襲に襲われ、横手にもあった経済倶楽部会員の縁で本社機能のほとんどを横手に移し「横手支局」を開設します。現在の「出羽印刷」の場所から「東洋経済新報」を全国に送りました。



横手柿発祥の地（二葉町） (大瀬宇左衛門 ゆかりの地)

横手柿は、戸村氏の家中であった大瀬宇左衛門が京都から柿の木を持ち帰り、武家の蓄えの足しとして重宝されたといわれ、横手の名産となりました。現在も「横手柿」と呼ばれる柿を家の庭で栽培する文化が継承されています。

明治35年、木村屋の創業者山下九助が当時の横手に有名なお土産がないことから、名産の横手柿に着目して「柿羊羹」を製造し、明治時代から続く銘菓となっています。



写真：木村屋

旧日新館 (M.M.スマイザー ゆかりの地)

建物は明治期の洋風建築の特色をよく残しており、秋田県指定有形文化財に指定されています。旧制横手中学校嘱託英語教師として赴任した米人宣教師は多数いますが、M.M.スマイザーは、大正3～昭和7年まで赴任し、その後も旧日新館に住み、昭和30年に八十歳で亡くなるまで、伝道生活を続けた方であり、地域の人々にとっては縁の深い方でした。



石坂洋次郎文学記念館：ゴール地点 (石坂洋次郎 ゆかりの地)

作家の石坂洋次郎が、大正15年より13年間にわたって横手で教員生活を送っており、横手は多くの作品の舞台となっています。

記念館は昭和初期の町家と土蔵をイメージして作られており、館内では石坂洋次郎が横手で教師として、また作家として過ごした当時の資料を中心に展示しています。

ゴール地点であり、横手駅までバスで戻るのが便利です。





〒013-8601 秋田県横手市条里一丁目1番64号
TEL.0182-23-6767 / FAX.0182-32-4655
E-mail : denken@city.yokote.lg.jp

